

タイトル

名前1[†], 名前2^{††}, 名前3^{††}, 名前4[‡]

〇〇大学工学部[†], 〇〇大学大学院^{††}, 〇〇研究所[‡]

1 はじめに

本プレートは, 進化計算研究会シンポジウム用に用意された $\text{T}_\text{E}\text{X}$ サンプルファイルです.

2 図表に関して

2.1 図について

図を出力するためには, 下記のような書式で記述してください.

```
\begin{figure}[htbp]
\begin{center}
\includegraphics[width=0.7\linewidth]
{figs/graphic_data.pdf}
\end{center}
\caption{図形}
\label{fig::graphic}
\end{figure}
```

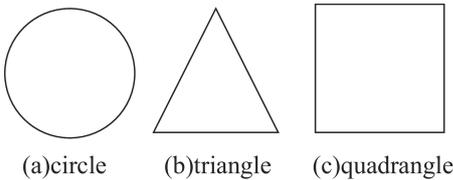


Fig. 1 図形

2.2 表について

表を出力するためには, 下記のような書式で記述してください.

Table 1 Problem Instance.

Problem	N	W	\bar{w}	$\sigma(w)$
tai75a	75	1445	183.4	242.9
tai75b	75	1679	198.7	273.4
tai100a	100	1409	152.0	201.5
tai150a	150	1544	145.54	200.7

```
\begin{table}[tbp]
\begin{center}
\caption{Problem Instance.}
\label{tb::example}
\begin{tabular}{ccccc}
\hline
Problem &  $N$  &  $W$  &  $\bar{w}$  &  $\sigma(w)$  \\
\hline \hline
tai75a & 75 & 1445 & 183.4 & 242.9 \\
tai75b & 75 & 1679 & 198.7 & 273.4 \\
tai100a & 100 & 1409 & 152.0 & 201.5 \\
tai150a & 150 & 1544 & 145.54 & 200.7 \\
\hline
\end{tabular}
\end{center}
\end{table}
```

3 式について

式の書き方には幾つかの種類がありますが, 以下, 幾つかの例について示します.

1. 文中で式を入れ込む場合

$\$数式\$$ という書き方をします. 例えば, $\frac{b_2}{a^2} \leq 0$ と記述すると, 「 $\frac{b_2}{a^2} \leq 0$ 」のように出力されます.

2. 数式を番号なしで1行挿入する場合

$\[\]$ と記述します.

例えば, $\[\frac{b_2}{a^2} \leq 0 \]$

Title of Paper

[†] English Name1(XXX@xxx.xxx.ac.jp)

^{††} English Name2(XXX@xxx.xxx.ac.jp)

^{†††} English Name3(XXX@xxx.xxx.ac.jp)

[‡] English Name4(XXX@xxx.xxx.ac.jp)

Department of 〇〇, ×× University ([†])

Graduated School of 〇〇, ×× University (^{††})

National Institute of 〇〇, ×× Research Center ([‡])

と記述すると、下記のように出力されます。

$$\frac{b_2}{a^2} \leq 0$$

3. 数式を番号つきで1行挿入する場合

`\begin{equation}` 式 `\end{equation}`と記述します。

例えば、`\begin{equation} \frac{b_2}{a^2} \leq 0 \end{equation}`と記述すると、下記のように出力されます。

$$\frac{b_2}{a^2} \leq 0 \quad (1)$$

なお、番号付きの式には図、表と同様にラベル付けおよびその参照を行うことができます。一例を以下に示します。

```
\begin{eqnarray}
\frac{b_2}{a^2} \leq 0
\label{eq::const-1} \\
a \times b \geq 10 \label{eq::const-2}
\end{eqnarray}
```

$$\frac{b_2}{a^2} \leq 0 \quad (2)$$

$$a \times b \geq 10 \quad (3)$$

式を参照するときには、`\eqref{式ラベル}`と記述します。上記の例では`\eqref{eq::const-1}`と記述することにより「式(2)」が出力されています。

ちなみに図、表、式だけでなく章(section)、節(subsection)など様々な箇所でラベル付けおよびその参照を行うことができます。その場合には、`\ref{ラベル}`と記述することによってラベル付けされた場所の番号を呼び出すことができます。

4 参考文献の引用について

例えば引用したい文献の情報をreference.bibに記述し、このように^{1, 2)}すれば参考文献を引用できます。BibTeXではなくthebibliography環境を使う場合は次の記述のコメントを解除してください。

参考文献

1) Kalyanmoy Deb, Samir Agrawal, Amrit Pratap, and T. Meyarivan. A fast and elitist multiobjective genetic algorithm: NSGA-II. *IEEE Trans. Evol. Comput.*, 6(2):182–197, 2002.

2) John R. Koza. *Genetic programming - on the programming of computers by means of natural selection*. Complex adaptive systems. MIT Press, 1993.